

**在宅医療取組現況調査報告書  
(概要版)**

**秋 田 県**

# 在宅医療取組現況調査について

## 1 調査の目的

全国で最も高齢化が進行する中で、高齢者等ができる限り住み慣れた地域で安心して医療を受けられる体制整備が求められていることから、効率的・効果的な事業の立案・実施に向けて県内医療機関における在宅医療の取組現況及び2025年(平成37年)の将来動向について把握のうえ調査分析を行い、今後の在宅医療提供体制の構築に役立てる。

## 2 調査方法及び回答状況

### 【アンケート調査】

- ①調査対象 県内全ての病院・診療所 702施設  
※介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、事業所内診療所及び健診機関の届出による診療所は除く。
- ②調査方法 郵送によるアンケート方式
- ③調査期間 平成27年8月～平成27年9月
- ④回答状況
- |      |     |      |     |      |     |       |
|------|-----|------|-----|------|-----|-------|
| ・診療所 | 対象数 | 632件 | 回答数 | 375件 | 回答率 | 59.3% |
| ・病院  | 対象数 | 70件  | 回答数 | 59件  | 回答率 | 84.3% |
| ・合計  | 対象数 | 702件 | 回答数 | 434件 | 回答率 | 61.8% |

### 【ヒアリング調査】

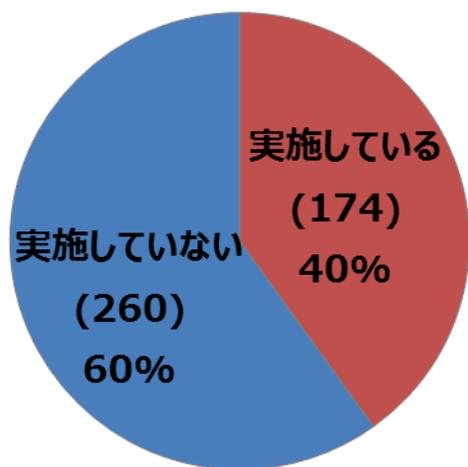
- ①調査対象 アンケート調査により回答のあった中から県で任意に抽出した診療所・病院 31施設
- ②調査方法 個別訪問によるヒアリング方式
- ③調査期間 平成27年12月～平成28年2月
- ④実施状況
- |      |      |    |     |    |      |
|------|------|----|-----|----|------|
| ・診療所 | 27施設 | 病院 | 4施設 | 合計 | 31施設 |
|------|------|----|-----|----|------|

### 3 調査の概要

## (1) 在宅医療の状況

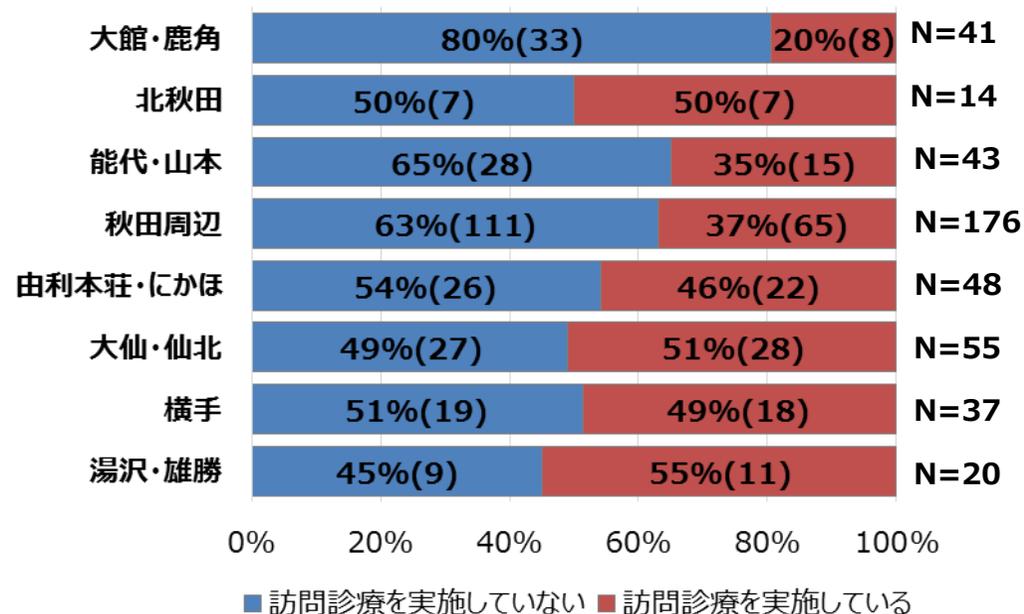
- 訪問診療を実施している診療所・病院は40%、実施していない診療所・病院は60%であった。
- 医療圏別にみると、訪問診療を実施している診療所・病院の割合は、大館・鹿角医療圏が20%と最も少なく、湯沢・雄勝医療圏が55%で最も多い。

【訪問診療の状況】



N=434

【医療圏別に見た訪問診療の状況】

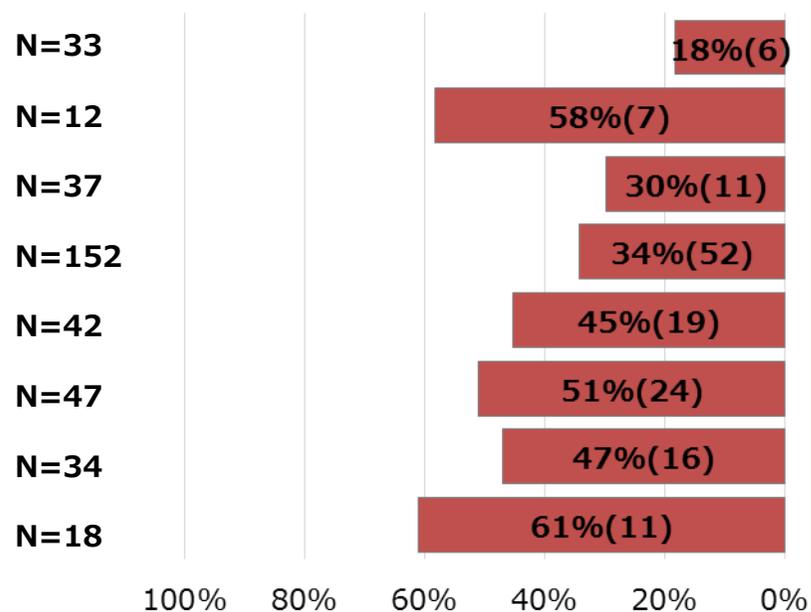


※括弧内は医療機関の数を示す

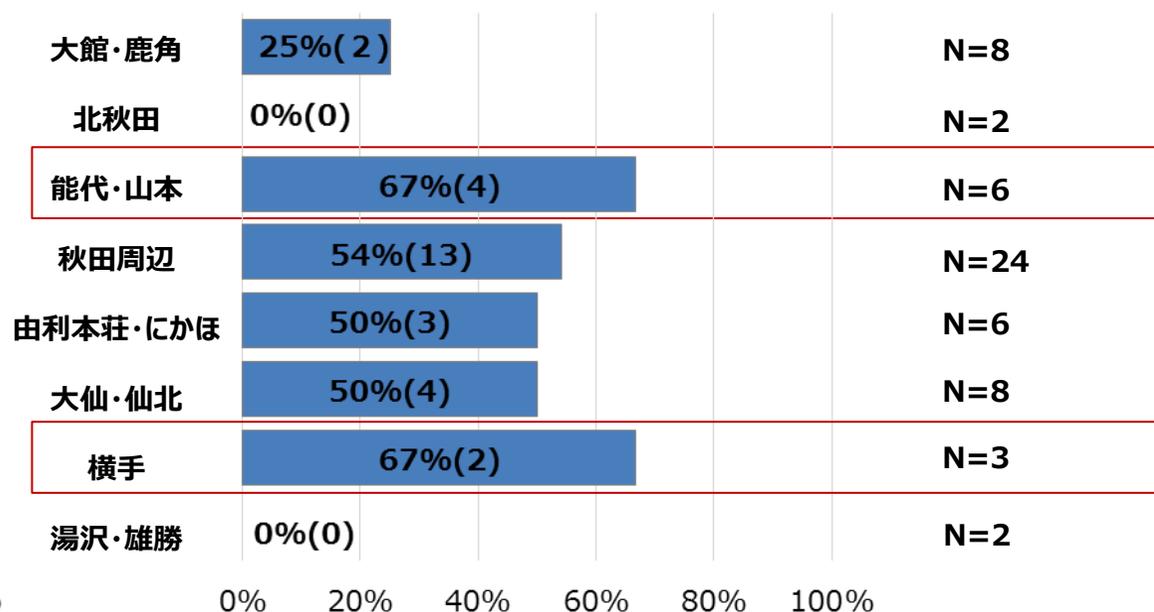
## (2) 訪問診療を実施している医療機関の状況

- 訪問診療を実施している医療機関の割合を、診療所と病院に分けて比較すると以下のとおり。
- 能代・山本医療圏と横手医療圏では、訪問診療を実施している病院の割合が67%で、医療圏のなかで最も高かった。北秋田医療圏と湯沢・雄勝医療圏は、訪問診療を実施している病院は0件であるが、訪問診療を実施している診療所の割合はそれぞれ58%と61%で、他の医療圏に比べて高かった。

【診療所】



【病院】



※括弧内は医療機関の数を示す

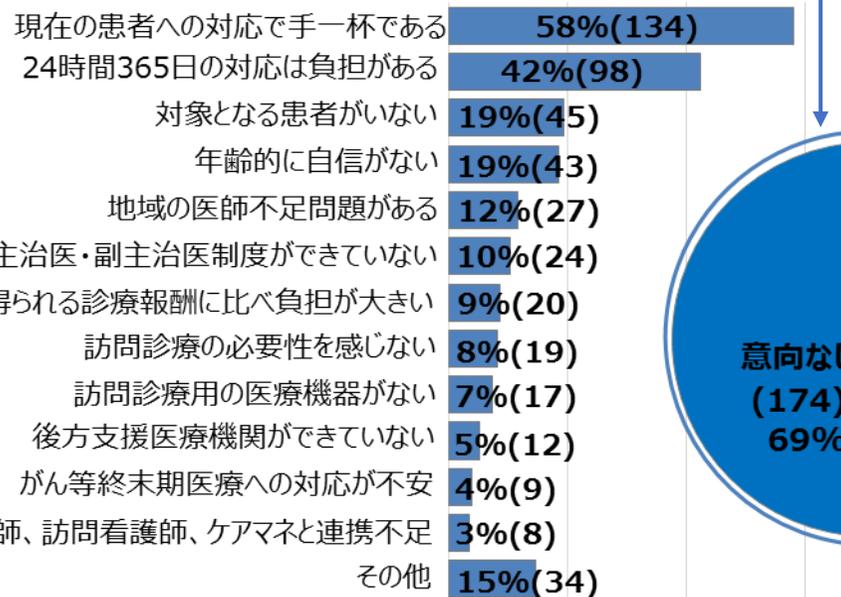
### (3) 訪問診療を実施していない医療機関の取組み意向

■ 訪問診療を行っていない医療機関の今後の取組み意向をみると、「取組む意向があり実施する予定がある」との回答は4%であった。その理由として、「訪問診療を必要とする患者が増加」と回答した割合が55%と最も高かった。一方、訪問診療への取組み意向がない理由には、「現行業務で手一杯であること」のほか、「24時間365日対応の負担」が多かった。

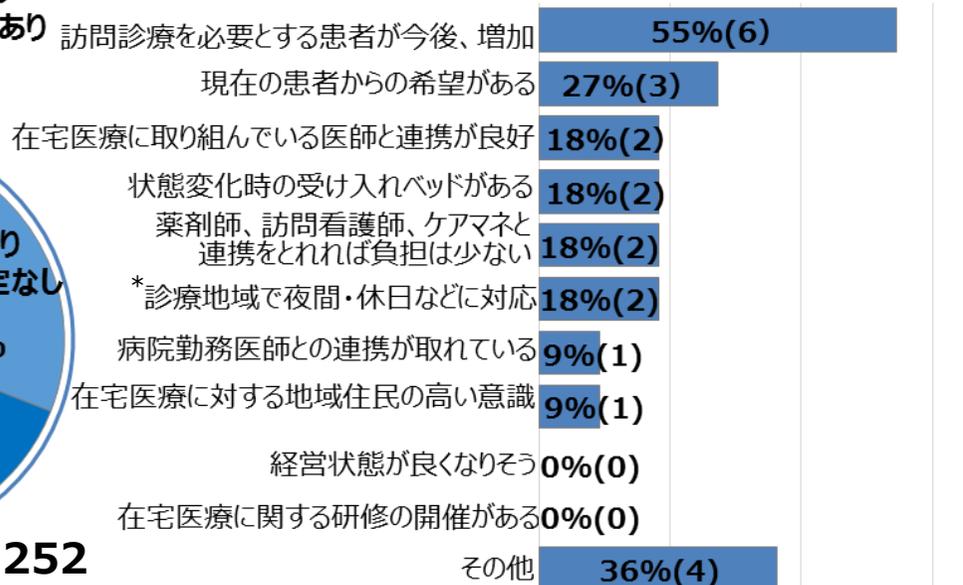
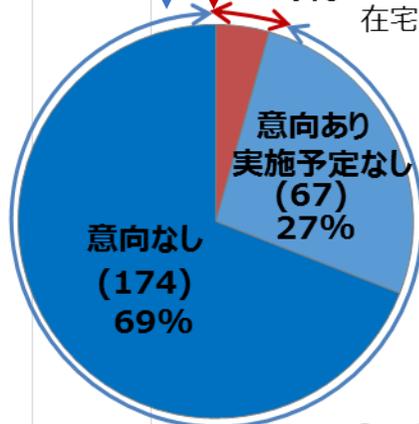
【取組む意向があるが、実施は難しい】  
【意向はない】理由

【取組み意向】

【取組む意向があり、実施する予定がある】理由



意向あり  
実施予定あり  
(11)  
4%



N=231 (複数回答)

※問2-2-2の無回答10件を除く

※括弧内は回答数を示す

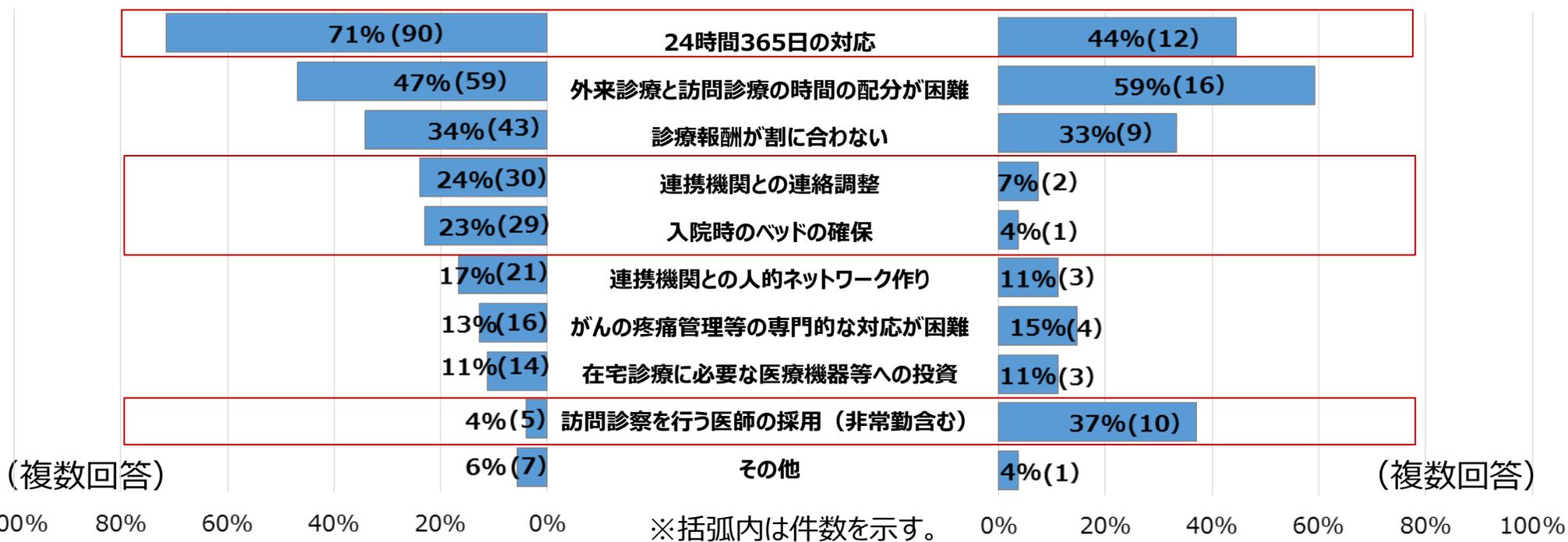
\*注：右上図内の\*(アスタリスク)は、次の設問の略記。「訪問地域で夜間・休日などに対応できる医師との連携体制が整備されている」

N=11 (複数回答)

## (4) 訪問診療を行う上で負担となっていること

- 訪問診療を行う上で負担となっていることについて、診療所と病院の回答を比較したところ、「24時間365日の対応」「連携機関との連絡調整」「入院時のベッドの確保」「訪問診療を行う医師の採用」などで、回答に多寡が生じた。

【診療所】 【訪問診療を行う上で負担となっていること】 【病院】



N=126

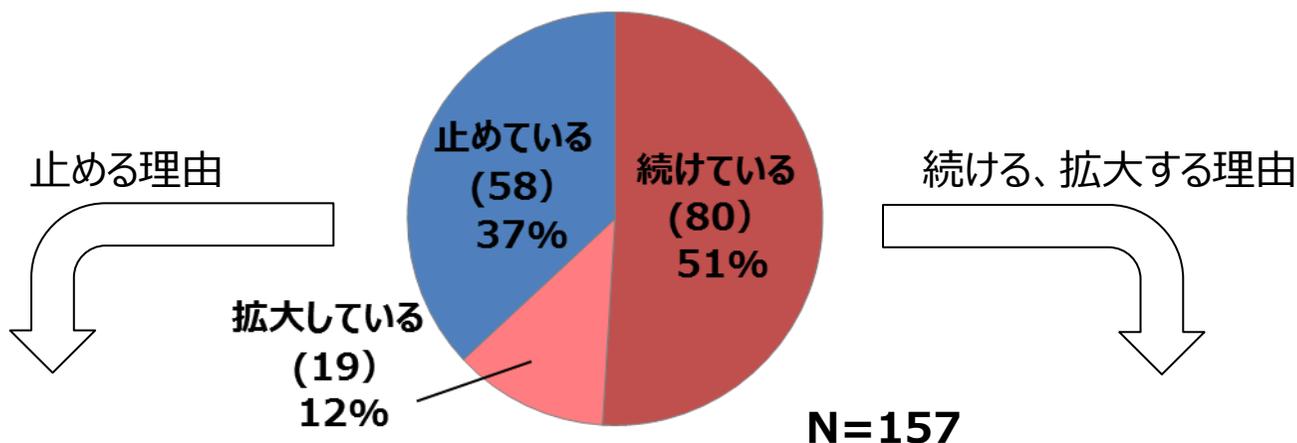
N=27

## (5) 10年後の在宅医療への取組み意向

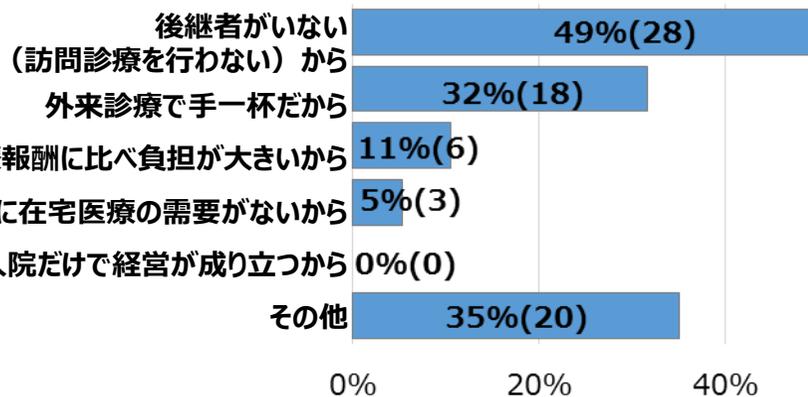
- 現在訪問診療を実施している医療機関の37%が、10年後に訪問診療を「止めている」と回答。その理由に訪問診療を行う「後継者がいない」とした医療機関が49%で最多。
- 10年後も訪問診療を継続し現在よりも「拡大している」と答えた医療機関が12%に止まった。10年後、訪問診療を「続けている」「拡大している」と回答した医療機関が、その理由としたのは「現在の患者からの希望があるから」等、患者ニーズを理由とするものが多かった。

※右記の円グラフの括弧内は医療機関の数を示す。

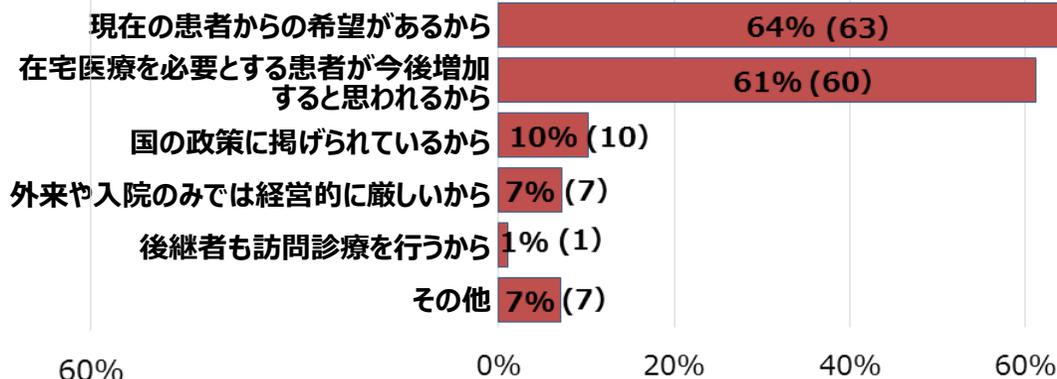
※下記の棒グラフの括弧内は回答の件数を示す。



N=57



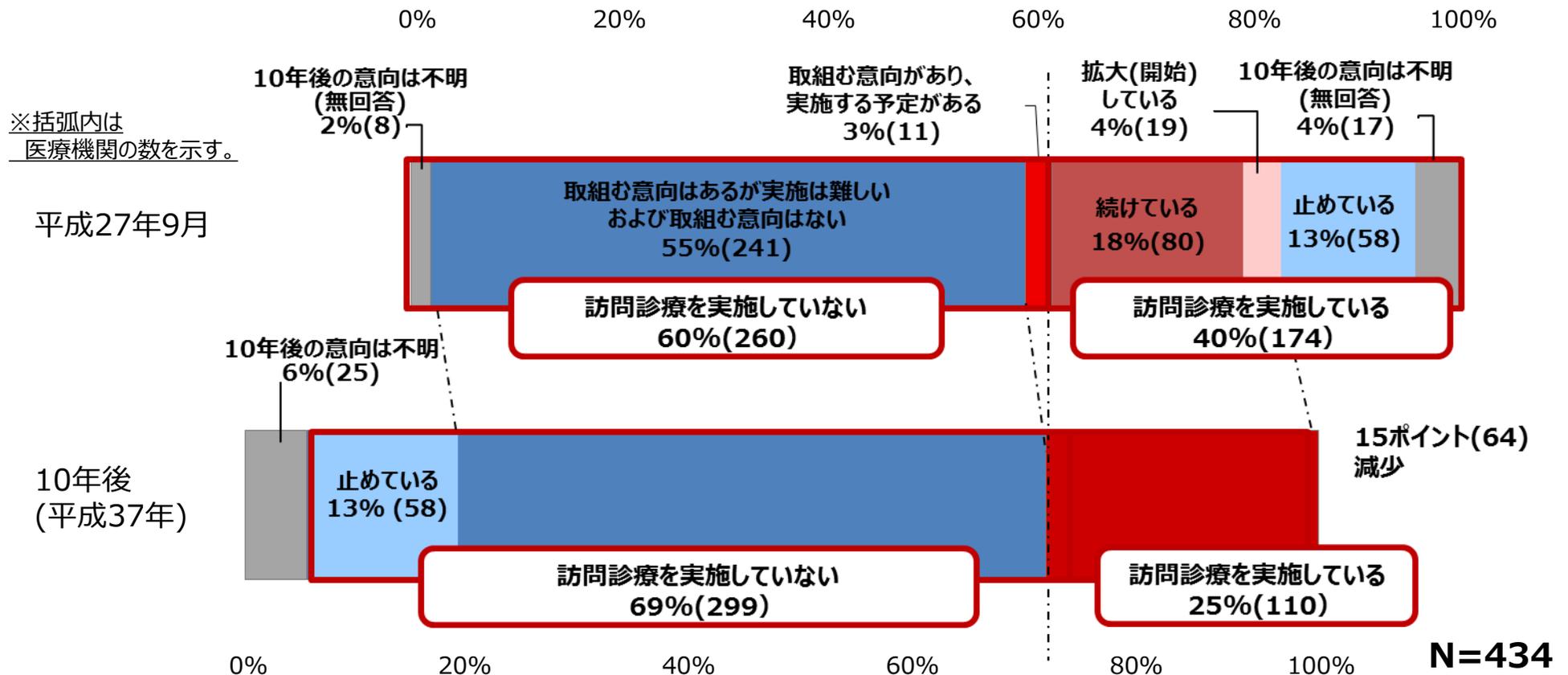
N=157



N=98

## (6) 10年後の訪問診療の実施状況

- 新規の開業を考慮しなければ、10年後に訪問診療を実施する医療機関は、現在の174施設から110施設へ減少する。一方、前ページに示した通り、現在訪問診療を実施している医療機関の61%が、10年後、在宅医療を必要とする患者が増加すると見ている。本調査が示すとおり、訪問診療を実施する医療機関が減少した場合、10年後、県全体の訪問診療ニーズへの対応が課題となる。

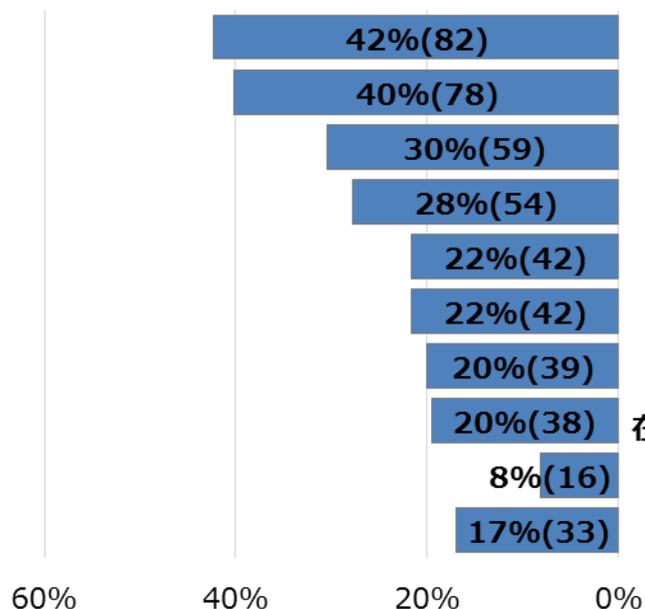


## (7) 今後、在宅医療が発展するために必要と思われること

- 訪問診療の実施の有無にかかわらず「診療報酬等の調整」と回答した割合が最も高い。訪問診療を実施している医療機関では、「市町村による体制整備」「看護師による一時対応の充実」「行政からの補助金等の支援」に対する回答が多かった。

### 【在宅医療が発展するために必要と思われること】

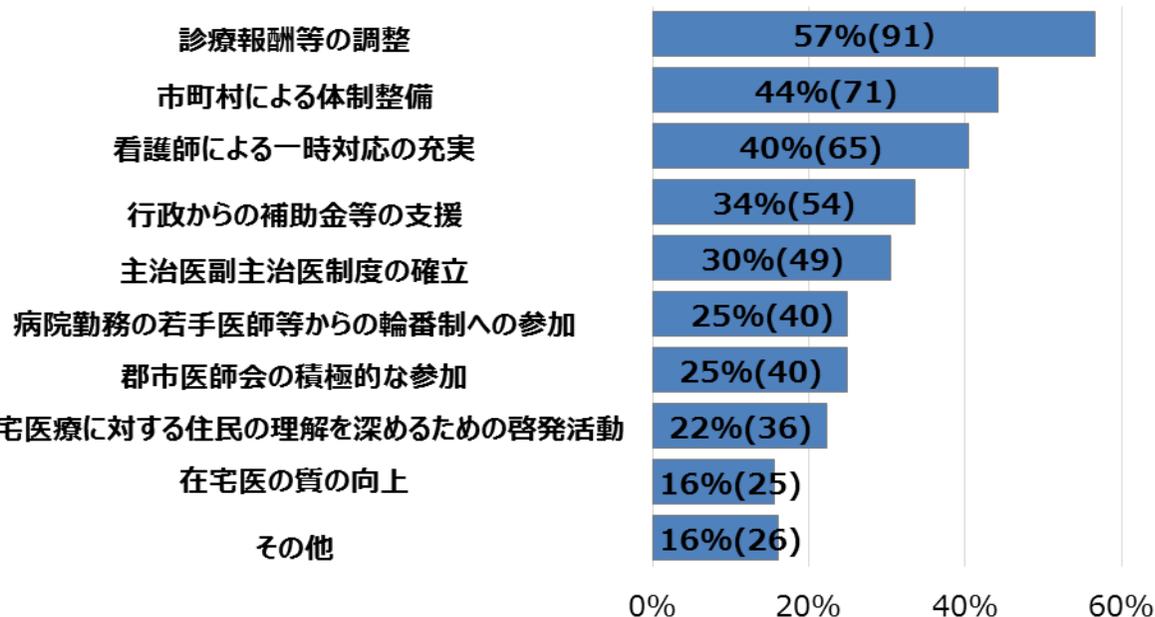
#### 【訪問診療を実施していない】



N=194 (複数回答)

※括弧内は回答数を示す

#### 【訪問診療を実施している】



N=161 (複数回答)